



# 『共生社会のマナビ～障害者の生涯学習支援入門ガイド・事例集～』の作成

## 作成の趣旨

障害者（主に知的障害者等）の生涯学習支援の入門ガイドとして位置付け、特に地方公共団体の関係職員が取組を検討する際、「どんなニーズがあるか」「何から始めればよいか」などを考えるための基本的な認識や知識、参考となる情報等をコンパクトにまとめ、先進的な事例のエッセンスを紹介・共有する。「障害者の生涯学習の推進を担う人材育成の在り方検討会」の有識者委員等が各記事を執筆。各地の関係職員研修等での活用も想定している。

### はじめに1 障害者の生涯学習 – 3つのキーワード–

- 「学び」＝学校の「勉強」だけでなく、学校卒業後も、人生を豊かにする様々な出会うや経験から得る活動も幅広く含むもの
- 「障害の社会モデル」＝社会の側が「障害」をつくっているという捉え方
- 「合理的配慮」＝障害者が活動に参加できるようにするための様々な工夫

### はじめに2 なぜいま「障害者の生涯学習」なのか

- 「見直される生涯学習」＝困難な時代だからこそ、障害者も含めて誰一人取り残さない共生社会を目指す、社会的包摂の生涯学習へ
- 障害者の自己実現や社会参加の実現には、常に学びが必要になる
- 障害者の学びの場への参加を妨げるハードルを取り除く責務が社会にある

#### 事例1：国立市公民館（東京都）

- 「たまり場」から生まれるインクルーシブな学び  
～国立市公民館「コーヒーハウス」の取り組み～

#### 事例2：朝来市生涯学習センター（兵庫県）

- 教育と福祉の連携 地域みんなで作る障害者の暮らしを支える講座～「知的障害者オープンカレッジ」の取り組み～

#### 事例6：コミュニティスクール（山口県）

- 「防災」の学びを通じた特別支援学校と地域の関係づくり～山口県立山口総合支援学校コミュニティスクールの取り組み～

#### 事例7：特別支援学校公開講座（東京都）

- 特別支援学校を「地域」に開き、活かしていく

#### 事例3：神戸大学KUPI（兵庫県）

- インクルーシブな履修証明プログラムで知的障害者に大学を拓く～神戸大学KUPIの取り組み～

#### 事例4：NPO法人 障がい児・者の学びを保障する会（東京都）

- 障害当事者中心の学びを支えるコーディネーターの気づき～NPO法人障がい児・者の学びを保障する会の取り組み～

#### 事例8：NPO法人 PandA-J（全国各地）

- いろいろな立場の人が協働して学びを拓く  
～NPO法人PandA-Jの取り組み～

#### 事例5：練馬区自立支援協議会（東京都）

- 障害者本人と一緒に場をつくる学びの場  
～当事者の声を反映させるための“参加”の仕組み～

#### 事例9：福井市自立支援協議会（福井県）

- 「障がい者のためのクラブ・サークル紹介」の発行を通じた生涯学習情報の収集・発信  
～福井市障がい者自立支援協議会の取組～

### 障害者の学びの場・合理的配慮Q&A

Q：障害者の生涯学習事企画する際に、重要な視点は？

A：障害当事者の思いに寄り添った学びの場、仲間づくりの支援が重要です。

Q：合理的配慮のために、専門的な知識や技術を身に付ける必要がある？

A：障害当事者の個別ニーズを聞き、対話をしながら、対応を考えることが重要です。

Q：多くの障害当事者に講座に参加してもらうには？

A：障害福祉部局、特別支援学校等との連携が有効です。

